

F S Cステークホルダーミーティング

日 時：平成22年11月12日（金）

場 所：品川プリンスホテル

今回、F S Cの最高意思決定機関である「F S C総会」に次ぐ「F S C理事会」が日本で開催された。その一環として、F S Cを運営する本部（理事）と日本のF S C認証取得者や利害関係者が制度の課題や問題点について意見交換する「F S Cステークホルダーミーティング」が開催されたため、天竜林材業振興協議会森林認証部会を代表して参加した。

○F S C認証取得者等の主な発言内容

1、C O C認証取得者 木材関連<傍聴>

- ・認証機関（F S C、P E F C、S G E Cなど）間の相互認証を認めてほしい。
- ・（F S C本部）F S C最大の資産は信頼性。他の認証はF S Cとイコールの水準ではない。
- ・もっとF S Cが権力を持ち、本当のフェアウッドはF S Cだけだというプレッシャーを国にかけてほしい。
- ・政府の成長戦略として国産材を推奨しているが、認証材も推薦してほしい。
- ・F S C本部やF S CジャパンはもっとP Rに努め、F S C材の使用がスタンダードになるよう啓発してほしい。
→認知度は少しずつ上がっており、認知度が上がれば重要度が上がる。現在、ブランド構築のため、主要企業との連携を進めている。
- ・F S C材の流通量が少ないため、卸売までC O C取得を取得するのは難しい。
- ・国内全体の99.7%程度は中小業者であり、認証取得・更新コストは大きな問題。
- ・規則が多岐にわたり、手間と人工がかかりすぎる。「虎の巻」のようなものがあればもっと広がるのではないか。
→F S Cは、立ち上がり時はシンプルなシステムだったが、組織が多くなるにつれ複雑になった。現在は確かに複雑で難しい感がある。シンプルにするためのルール化が必要。グループ認証を上手に活用されたい。
- ・日本のビジネスマンは名刺が必需品。会話も広がりF S Cの認知度も上がる。検討されたい。

2、F M認証取得者

性格がそれぞれ違う次の4者が、取得者を代表しプレゼンテーションを実施。

- ①山梨県：日本で最大のF S C森林を所有
 - ②N P O法人緑のダム北相模：N P Oとして初めて取得
 - ③F-net大井川：研究会が主導し行政が支援
 - ④多摩農林：首都・東京で初めて取得
- ・F S C材がスタンダードに使われるようにするためには、取得者だけでは難しい。
C O C認証者と連携を密にし、啓発活動を進めてほしい。
 - ・認知度が低い。C O C認証取得者を増やしてこれを高めてほしい。
 - ・日本における主な問題点は次のとおり。このため、昔から持続可能な森林管理を行ってきた森の民である日本の素材生産が止まっている。
 - ①年次審査のコストが高い
 - ②蒸し暑い日本において、F S Cが規定する安全装備をすべてクリアするのは難しい
 - ③バッファゾーンの設定
 - ④モニタリングという意識が元来ない
 - ⑤財産と管理が分かれている（例：吉野地域の山守制度）
 - ・（F S C本部）生産と需要のバランスが必要。これは、F S Cの関係者だけでなく多くの協力者が必要。
 - ・（F S C本部）認知度を高め、これに関心、商品決定につなげるプロセスで進めたい。このプロセスでそれぞれの国において進められたい。
 - ・（F S C本部）もっとF S Cが広がるように努力したい。これには、ローカルレベルでの広がりが必要であり、F S Cジャパンとのつながりを強めたい。

3、COC認証取得者 その他 <傍聴>

- ・問題は市場に近いところで発生している。つまり、市場がなく、ビジネスにつながっていない。
- ・大企業から小さな企業までFSCという武器を持って市場に出ている。ただ、市場の環境意識、FSCへの認知度は低い。この打開のため、認知度・需要を上げていかなくてはならない。
- ・(FSC本部)日本だけでなく、世界も同じような状況。「いかに消費者にPRするか？」を考えてきた。今、ブランド形成のためのパートナーを探している。
- ・(FSC本部)長期的な取組みが必要。FSCにとってアジアの優先順位は高い。FSCジャパンや関係者はパートナーだと思っている。今後もFSCジャパンと協力しながら進めていきたい。

○今後に対する見通し又は意見

FSC本部の意見が直接伺えるとともに、日本の取得者の意見が聞ける貴重な機会であり、大変参考になった。

日本におけるFSCの問題点としては、どの部門の話聞いても『認知度が低い』ということに尽きると感じた。世界的な環境意識の高まりや違法伐採への法規制等、様々な追い風は吹いているものの、市場ニーズがない現状では、持続可能な取組みは続かない。

大きなパートナーを得て進めるもよし、草の根的な啓発活動もよし、取得した本地域としては、環境に配慮した木材・FSC材を使う文化を創り、今ない市場ニーズを作り出すことに力を尽くさなくてはいけないと感じた。

〇COC認証取得者 木材関連<傍聴>の様子



会場の様子。



F S C事務局長のアンドレ。(後に名刺を交換)

〇FM認証取得者の様子



会場の様子。



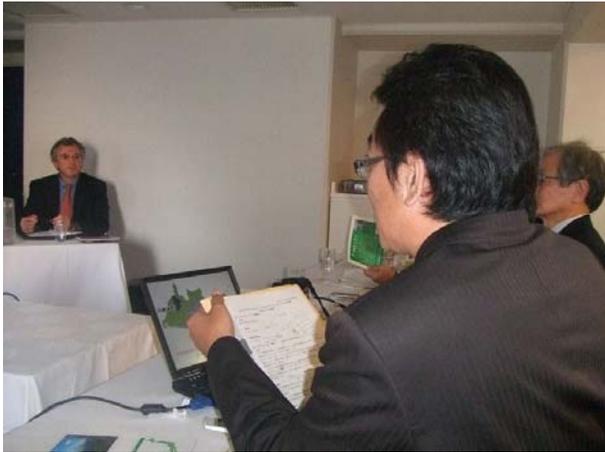
司会はF S Cジャパンの富村氏。(本地域審査員)



山梨県有林の発表風景。



N P O法人緑のダム北相模の発表風景。



F-net大井川の発表風景。発表は川根本町役場の鈴木氏。



〇COC認証取得者 その他 <傍聴>の様子



会場の様子。



司会のF S Cジャパン岩瀬氏。



F S C理事のみなさん。